

日々の仕事を少し楽に：小粒で便利なフリーソフト

嶋 田 晋*

フリーソフトの中から、主に業務に有用と思われるもの3点を、実際の使用例とともに紹介する。「ハイパーテキストスクリーンセーバー」はHTMLファイルをスクリーンセーバーとして表示させる機能を持ち、広報や掲示用途でも有用である。「Schedule Board」はグループウェアとして、組織内のスケジュール管理機能を簡易に実現する。「BunBackup」はバックアップを簡単かつ高速に実行できる機能を持ち、高度な設定も可能である。いずれのソフトも非常に高い実用性を無償で提供しており、業務やそれ以外の場面でも大いに活用することができると思われる。

キーワード：フリーソフト、Windows、スクリーンセーバー、HTML、グループウェア、情報共有、バックアップ

1. はじめに

業務や日常生活でパソコンを使用していく上で、商用の（有償で入手する）ソフトウェア（以下ソフト）を使用する機会は多いと思われる。例えば、ワープロや表計算といったオフィス系ソフトやウィルス対策ソフト、静止画・動画の編集ソフトなどが代表として挙げられる。一方で、パソコンの世界では、以前から（主に自作の）ソフトを無償で配布して使ってもらおうというフリーソフトの文化も存在した。

フリーソフトの中には、商用ソフトに引けを取らない大作もあるが、商品として流通しにくいような小粒なソフトも多い。「こんな機能があったら便利」という動機で作られることが多いため、小粒ながらも用途に合えば非常に役立つものとなっている。

本稿では無数にあるフリーソフトの中から、Microsoft Windows（以下Windows）で動作し、主に業務やそれに関連した場面で役立つと思われるソフトを挙げて紹介をしたい。

2. ハイパーテキストスクリーンセーバー¹⁾

2.1 概要

けんちゃん氏の作成・配布しているソフトである。このソフトは「スクリーンセーバーとしてHTMLファイルを表示する」ことができる。ただそれだけ、と思われるかも知れないが、使い方によってはかなり重宝するソフトである。

スクリーンセーバーとは、一定時間パソコンの操作が行われなかった場合に簡単なアニメーション等を表示させる機能である。Windowsでは標準で設定されているため、それと知らずともご覧になったことのある方は多いはずだ。

ブラウン管がディスプレイの主流だった頃は、長時間同じ映像を映し出した時に発生する「焼きつき」（画面に映像の跡が残って消えなくなる現象）を防止するための機能だった。その後、原理上焼きつきがほとんど発生しない液晶ディスプレイの普及によって、今日では本来の用途よりは鑑賞・娯楽要素が強いものとなっている。ただWindowsをはじめ、スクリーンセーバー表示からの復帰時にパスワードを要求できるシステムが多いため、セキュリティの観点からスクリーンセーバーを使用している場合もある（なお、焼きつき防止や節電の意味では、ディスプレイの電源を切ることが最も効果的である）。

このソフトは、そのスクリーンセーバーとしてHTMLファイルを表示させることができる。内部的にInternet Explorerを使用しているので、Internet Explorerで表示できるファイルならHTMLファイルに限らず、JPEG、GIFファイルなども含めて表示可能である。

2.2 使用例

スクリーンセーバーとしてHTMLを表示させる、という単機能のソフトのため用途はある程度限られるが、筆者の職場である大学図書館では、利用者用のコンピューターのスクリーンセーバーとしてこのソフトを導入し、各種お知らせやサービスの案内、注意事項等を表示させている。

（図1）

表示させるHTMLファイルは一つしか指定できないが、

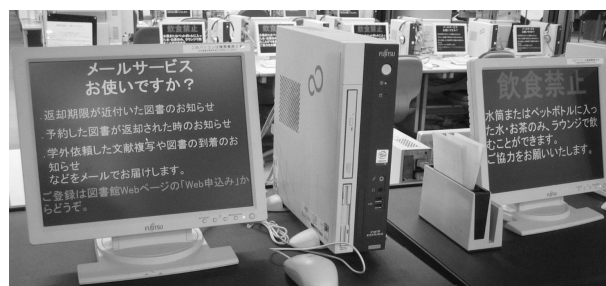


図1 スクリーンセーバーとしてお知らせ等を表示

*しまだ すすむ 国立大学法人 筑波大学附属図書館情報管理課図書購入係
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel. 029-853-2352 (原稿受領 2008.2.22)

HTML ファイルのヘッダ部分に

```
<META http-equiv="refresh" content="秒数; url=移動先">
```

と META 要素を書いて、複数の HTML ファイルを紙芝居状態で表示させている。

表示できるのは特別な記述が必要ない通常の HTML ファイルなので、フォントの大きさや色、背景色を任意のものに設定したり、画像ファイルを挿入したり、また JavaScript やスタイルシートを用いて動的なページを作成することも可能である。これらを駆使して、利用者の注意を引く案内表示を行うことができる。また、アニメーション GIF や Flash を使用することで、動画の表示もできる。ロッカーや自動貸出装置の使い方など、文字では説明しにくいことでも、案内が可能になる。

このソフトでは、URL を書くことでネットワーク上の HTML ファイルを表示させることができる。上記のような広報用 HTML を Web サーバーに置けば、そのファイルを修正するだけで全ての利用者コンピューターのスクリーンセーバーの表示を変えることが可能になる。

以上は利用者スペース向けの使用例だが、通常の職場でも離席時の行き先や帰席予定の表示、伝言等に使えることもあるだろう。

2.3 使用・設定方法

HTScrSav.zip を解凍してできるファイルのうち、HTScrSav.scr を任意の場所にコピーする。同梱されている HtScrSet.ini は設定ファイルだが、なければ自動的に生成されるので特にコピーの必要はない。そのままではスクリーンセーバーの一覧には表示されないで、コピーした HTScrSav.scr を右クリックして「インストール」を選ぶ。そうすると、スクリーンセーバーの一覧に「Htscrsav」の名前で登録される。スクリーンセーバーの設定画面で「設定」ボタンを押すと設定画面が表示される。(図 2) ここで、表示させたい HTML ファイルや URL を指定する。

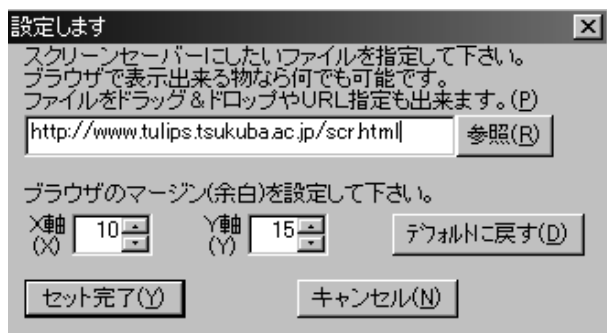


図 2 ハイパーテキストスクリーンセーバーの設定画面

削除したい場合は、コピーした場所にある HTScrSav.scr ファイルと HtScrSet.ini を削除するだけでよい。

2.4 まとめ

以上のように機能としてはごくシンプルで用途も限られており、決して大物ソフトというわけではない。しかし、使い方次第で手間が省け利便性が大幅に増すという意味では、フリーソフトの鑑のようなソフトと言える。

3. Schedule Board²⁾

3.1 概要

ルミックス・インターナショナル株式会社が作成・配布している、スケジュール管理や施設管理に利用できる無料のグループウェアソフトである。

グループウェアとは、組織内でコンピューターとネットワークを介した情報共有を支援するソフト・サービスの総称である。電子メール、掲示板、ファイル共有、スケジュール管理、ワークフロー等の機能を持ち、有名なものとしては、有償の Lotus Notes や Microsoft Exchange、サイボウズや、無料の NetCommons 等がある。これらはサーバーにインストールする必要があるため、導入や維持管理のコストは相当のものとなる。また有償、無償ともに外部のサーバーで提供するサービスを利用するものもある。

一口にグループウェアと言っても、機能や導入方法は様々であるが、今回紹介する Schedule Board は、その名の通り、ごくシンプルにスケジュール管理（とそれを応用して施設等の管理）を実現するソフトである。Windows が動作するパソコンであればどのパソコンでも動作し、必ずしもネットワークに繋がっている必要もないが、グループウェアとして便利に使用するには、ネットワークに接続されていた方がよい。そのため、まったくの初心者から環境設定を行うにはやや敷居が高いと思われるが、もし職場等に Windows で使用できる共有フォルダがあれば、そこにデータファイル等を置くだけでこのソフトはグループウェアとして機能する。つまり、Windows から読み書きできる置き場所さえあれば新たにサーバーを導入する必要がないため、機能は限定されるが、低コストでグループウェアの導入が可能になる。

3.2 使用例

筆者の職場ではこのソフトを使用して、部課長や各係のスケジュール情報を共有している。特にアクセス制限などをかけていないので、一般の係員でも他の係や部課長の予定を確認することができ、情報共有の一端を担っている。また、人や係の予定だけでなく、会議室等の予約にも活用されている。以前は紙の予定表に書き込んでいたものをこのソフト上に移行することで、より簡単に会議室等の確保ができるようになった。

スケジュール共有のためのグループウェア導入が検討された当初は、知名度の高い大手ベンダーのグループウェアが候補として挙げられていた。しかし、ソフト自体の価格はもちろん、サーバーの導入・維持管理費用も考慮すると相当な金額になってしまう。単純なスケジュール管理や会議室予約しか使わないのであれば、Windows 上で動作し設

定や導入も簡易な Schedule Board で十分と判断した。

3.3 使用方法

このソフトの主な機能は、スケジュールの管理である。グループとメンバーという概念があり、グループ単位で各メンバーのスケジュールを管理するという作りになっている。

基本の画面では、縦軸にメンバー、横軸に時間が取られている。(図3) 日付を指定しマウスで当該メンバーの時間帯をドラッグで選択の上、内容等を入力すれば(図4)、付箋のようなスケジュールが作成される。時間の細かい調整や件名、色の変更が可能である。



図3 Schedule Boardの基本画面



図4 スケジュールの内容等を入力する



図5 個人毎のスケジュール表示

表示モードを変更すれば、メンバー1人について、月間の予定を表示することができる。(図5) メンバーについて施設(会議室)や備品などを設定すれば、施設管理や備品貸出管理に使用することもできる。(図6)

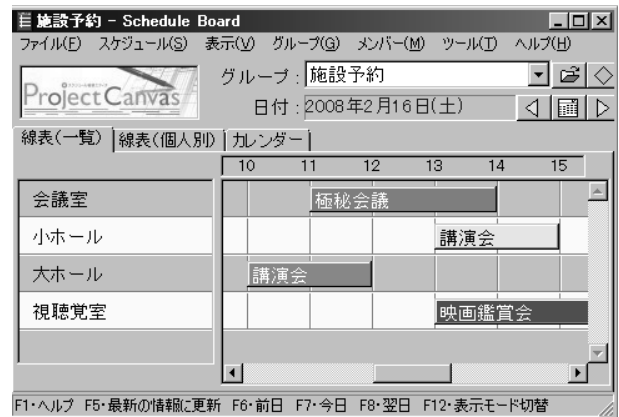


図6 施設予約への使用例

別売り(有償)で機能拡張ソフトやツールも用意されているが、無償で提供されている機能だけでも十分有用である。

3.4 ネットワークでの利用

グループウェアらしく使用するには共有フォルダの設定が必要であるため、やや敷居は高いかも知れないが、すでに共有フォルダが設定されていれば(そして、若干Windowsのネットワークに関して予備知識があれば)、導入はごく容易である。

インストールパッケージにも設定方法を解説した導入説明のPDFファイルや、解説の記述されている設定ファイルが同梱されているため、躓くことは少ないと思われる。

簡単に説明すると以下のような手順になる。

(1) グループファイルの保存先を共有フォルダとし、設定ファイル Setup.ini にその共有フォルダの場所、開きたいグループファイル名を記述する。図7の例は、¥¥share¥scheb という共有フォルダの下にグループファイルを保存した時の設定である。(詳細は設定ファイル中の記述を参照)

```
[Setup]
DefDir="¥¥share¥scheb"
GroupFile="¥¥share¥scheb¥library.group"
Description="職場のスケジュール管理"
```

図7 設定ファイルの記述例

(2) 導入説明ファイルに記載させている通りに、セットアップに必要なファイルを共有フォルダにコピーしておく。
(3) 個々のパソコン側では、共有フォルダに置かれたセットアップファイル (Setup.exe) を実行する。

これで(1)の設定ファイルに記述した共有フォルダ内のグループファイルでスケジュールの管理が行えるようにインストールされる。なおアンインストールはコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から行える。

3.5 まとめ

ネットワークで使用するには若干敷居が高いかも知れないが、マニュアルも丁寧に書かれており非常に親切な作りとなっている。機能はスケジュールの管理のみとなるが、有償のグループウェアに比べ、導入に必要な資源は格段に少なく済む。配布元でも紹介されているように導入実績も少なくなく、職場での実用に耐えるソフトであることが分かる。

4. BunBackup³⁾

4.1 概要

Nagatsuki氏が作成・配布しているバックアップソフトである。

ハードディスクに重要なファイルを入れておいたところ、何かの拍子に削除してしまった、システムの破壊やディスクの物理的な損傷などでファイルを読めなくなってしまった、という経験をした人も少なくないと思われる。また、マルウェア（ウイルス等）の被害によって、ファイルが削除されてしまうことも最近多くなっている。

仮にこれらの障害が発生した場合でも、こまめにデータのバックアップを取っていれば、全てのデータが失われてしまうことはない。ただ近年のデータサイズの肥大化や、データ量そのものの増大によってバックアップ作業にも手間がかかってしまうことが問題である。

このソフトは、Windows上でさほど手間をかけずに、か

つ高速にバックアップを行うことができる。バックアップしたいフォルダとバックアップ先を指定すれば、それだけでバックアップを取ることができるが、細かい設定を行うことで、より高度なバックアップを行うことができる。後述するが、単純にコピーするだけではないバックアップが可能のため、比較的複雑な用途にも十分耐えられるようになっている。また、バックアップの必要性や頻度の高いもの（お気に入りやメールのデータ等）は、予めそのソフト名から選べるようになっているなど、利便性は高い。（図8）

Windowsで認識されれば、どのディスクも対象にできるため、最近多く出回っているNAS（ネットワーク接続のディスク）やUSB接続のディスクなどもバックアップ先・バックアップ元として指定することができる。

4.2 使用例

筆者の職場全体で使用しているソフトではないが、個人的には非常に重宝しているソフトである。業務で使用するファイルについて、別のディスクへ定期的にバックアップを設定している。また自宅でも代替の利かないデータ類のバックアップに使用している。こちらは特に定期的に行う設定にはしていないが、USB接続のハードディスクを接続した時に、ボリュームラベル（ディスクの名前）を認識して自動的にバックアップを始める設定にしている。そのため、バックアップしたい時は、USB端子にバックアップ用に準備したハードディスクを接続するだけでよい。やや応用的な使用方法だが、非常に便利なので一度お試しください。

4.3 使用方法

ごく簡単に使うなら、「追加」を選びバックアップ元のフォルダとバックアップ先のフォルダを指定するだけでよい。（図9）また、除外するフォルダを指定したり、拡張子の限定をしたりもできる。（図10）さらに詳細な設定として、世代管理やミラーリング（バックアップ元でファイルが削除されていたら、バックアップ先でもファイルを削除する）を選択することもできる（図11）。

バックアップの設定は保存しておけるため、一度バックアップの設定を作成してしまえば、以後はその設定を読み込むことで、同じ設定でバックアップを行うことができる。



図8 アプリ毎のバックアップ設定

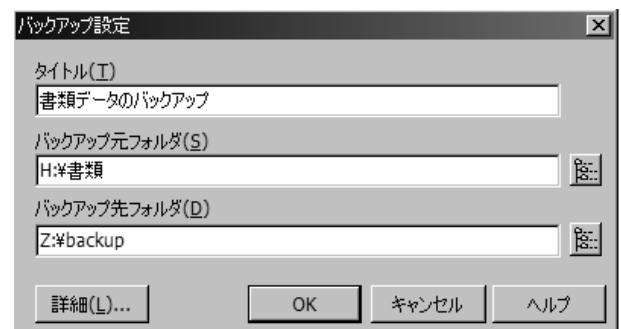


図9 バックアップの設定

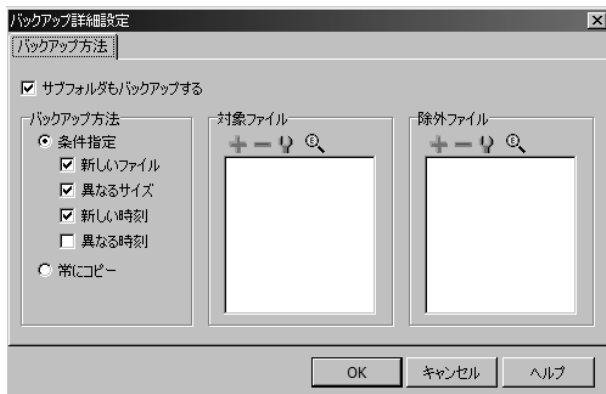


図 10 除外フォルダ等の設定

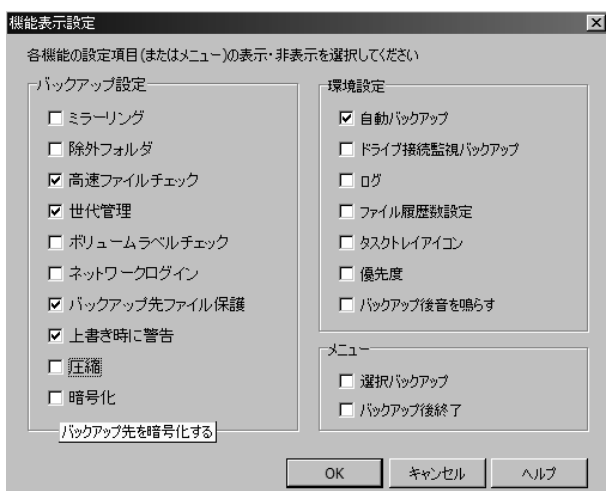


図 11 詳細な設定

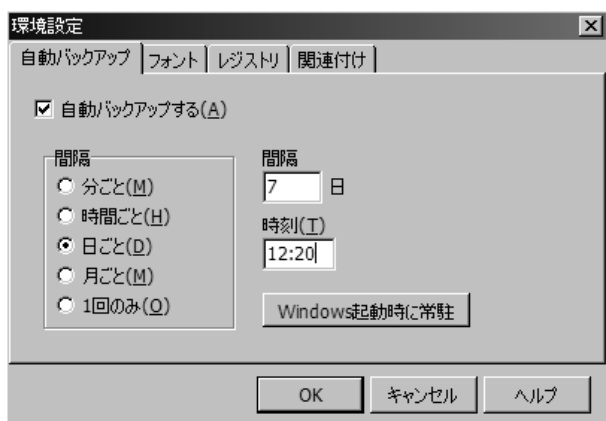


図 12 自動バックアップの設定

さらに、日時を指定して自動的にバックアップを行うこともできるため（図 12）、定期的・日常的にバックアップを行い、突発的なトラブルが発生しても被害を最小限に食い止める、という使い方もできる。

あるいは、バックアップの用途以外でも、普段使用するパソコンと持ち歩き用のノートパソコンとでデータを同期させる、という使い方にも使用できる（相手方のディスクをネットワークドライブとして認識させる必要がある）。

アンインストールしたい時は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」から行える。

4.4 その他

作者の Web サイトには、「バックアップ入門」として、バックアップの考え方から BunBackup の使用方法、応用例などが解説されたページも用意されている⁴⁾。特に応用編では実際にバックアップの設定をする時に便利な実例が掲載されているので、ぜひ一読をお勧めする。筆者が設定している「ディスクのボリュームラベルを認識して自動的にバックアップを開始する」設定も、こちらの記載を参考にした。

また、BunBackup をさらに便利に使うためのユーティリティソフトも数点作成・配布されている（BunBackup 自体と同梱されている版もある）。これらを使うことで、より高度に BunBackup を使用することができる（世代管理機能の補助やバックアップしたデータのリストア、暗号化されたバックアップの復号など）。

4.5 まとめ

バックアップは誰もが必要と考えているだろうが、実際に日常的・定期的に行っている人はそう多くないと思われる。このソフトは以上に紹介したように、簡単にバックアップを行うことができ、詳細な設定も可能である。根絶は難しいが、少しでも「悲劇」を防ぐために極めて有効なソフトであることは間違いない。手軽に試することができるので、ぜひその利便性を実感して欲しい。一度便利さを知ってしまえば、無料で配布されていることに非常な感謝を覚えるソフトである。

5. おわりに

以上、3 点のフリーソフトを簡単に紹介した。どれも派手さはないが、必要十分な機能を持った実用性の高いソフトであることがお分かりいただけたかと思う。また、テ

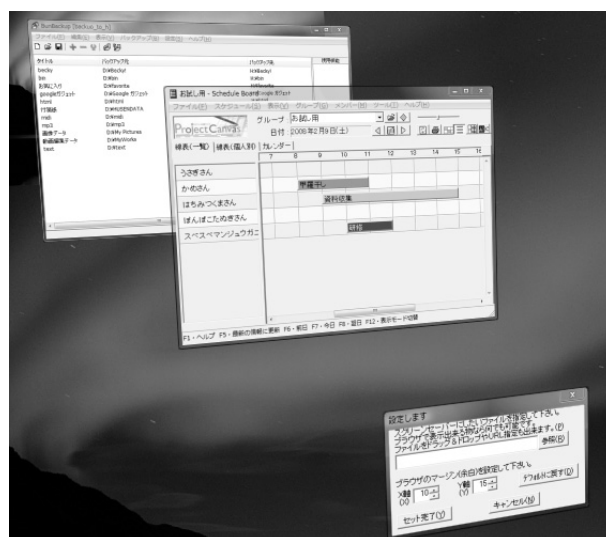


図 13 Windows Vista でも動作

マとして「仕事を少し楽に」と銘打っているが、業務で非常に有効に使用できる一方で、業務以外でも活用できる場面が多いと思われる。

なお、3点とも Windows Vista での動作が可能である(図13)(ただしハイパーテキストスクリーンセーバーのみ、動作環境には Windows XP/Vista が明記されていないため、筆者の環境で動作を確認した。他の Windows XP/Vista 環境での動作を保証するものではない)。

必要は発明の母と言われるが、自分が必要としている機能は他の人も必要としていることが多く、その機能はフリーソフトで提供されていることがしばしばある。フリーソフトの組み合わせで、高価な市販ソフトに匹敵する機能を実現できることもある。重要なのは、自分が必要としている機能を見極め、他の機能の組み合わせでの実現や、異なった方向からの解決法を発見する視点だと思われる。

今回の紹介によって、パソコンの世界で長く培われてきたフリーソフトの文化の一端を垣間見ていただくことができれば、また大きく広がっているフリーソフトの世界へ踏み出して頂くことができれば、非常に幸いである。

参 考 文 献

- 1) けんちん. けんちん工房 Win アプリコーナー. 2003/10/21. <http://kenchin8.hp.infoseek.co.jp/program.html> [accessed 2008-02-18].
- 2) ルミックス・インターナショナル株式会社. スケジュール管理ソフト Schedule Board. 2007/09/18. <http://www.rumix.com/sb/> [accessed 2008-02-19].
- 3) Nagatsuki. BunBackup. 2008/02/12. <http://homepage3.nifty.com/nagatsuki/bunbackup/bunbackup.htm> [accessed 2008-02-19].
- 4) Nagatsuki. バックアップ入門. <http://homepage3.nifty.com/nagatsuki/bunbackup/introduction/index.htm> [accessed 2008-02-19].

Special feature: Encouragement of software use for information professionals. It eases some daily work: small and useful freeware. Susumu SHIMADA (University of Tsukuba Library, Division of Information Management Book Purchase Section, 1-1-1 Ten-nodai, Tsukuba city, Ibaraki Prefecture 305-8577 JAPAN)

Abstract: I attempt to introduce three freeware with examples of how they are used, which they would be useful for our works. The “Hypertext Screensaver” has a function of display an HTML file as a screensaver, and it is useful for publicity and notice. The “Schedule Board” provides function of schedule management in an organization easily as a groupware. The “BunBackup” make backup operations easy and speedy, with some advanced settings. Each freeware provide very practical uses without charge, so we would utilize them in our works and other situations.

Keywords: freeware / Windows / screensaver / HTML / groupware / information sharing / backup